

々御奉行人相談を以相改、藏宿縮申付、給人賣上候書付可相返候。若米不足於有之者、被召上候直段を以代銀取立、御納戸に可被上事。

一、二ヶ月越候者、不足米有之候共、賣上候給人存間敷事。  
一、若藏宿火事に逢候共、俵數相違等於無之者、公儀可爲御損事。

右被仰出之通可被相守者也。

寛文二年七月十日

### 五 御召米之儀御定

覺

一、御召米給人賣上切手を以買上、翌年正二月、米員數并藏宿之名を帳面に記、其所之御奉行に遣、しまりいたさせ、右給人賣上可相返。(切手脱)自然賣上切手不相返内、米相違有之候者、被召上候直段を以代銀御納戸に可上事。

朱書。只今は給人賣上切手、藏宿之預り狀と取替申候。

一、御下行米勝手次第可被買上事。

一、給人米、所々御奉行差圖無之藏宿に預け置、其米賣上

以後相違有之候者、給人辨に可成事。  
一、所々米相場、日々に取に遣、三日之相場を平均、代銀無滞早速可相渡事。  
一、給人米賣上以後、自然藏宿火事に逢候はゞ、吟味之上を以公儀可爲御損事。

以上

卯十月九日

青	山	織	部
岡	嶋	甚	七
伊	藤	内	膳
奥	村	内	匠
今	枝	民	部
奥	村	河	内
前	田	對	馬

御算用場

### 六 出銀之儀御定

他國御供出銀被下當り覺

百石より二千九百石迄、はした知行有之時者、五十石よ

り上ね付、四十九石迄は下ね可付事。

- 一、百石 二百五十目
- 一、二百石 三百十匁
- 一、三百石 三百八十目
- 一、四百石 四百四十目
- 一、五百石 五百十匁
- 一、六百石 五百七十目
- 一、七百石 六百四十目
- 一、八百石 六百九十目
- 一、九百石 七百五十目
- 一、千石 八百目
- 一、千百石 八百六十目
- 一、千二百石 九百二十目
- 一、千三百石 九百八十目
- 一、千四百石 一貫四十目
- 一、千五百石 一貫百目
- 一、千六百石 一貫百六十目
- 一、千七百石 一貫二百目

- 一、千八百石 一貫二百六十目
  - 一、千九百石 一貫三百十匁
  - 一、二千石 一貫三百六十目
  - 一、二千百石 一貫四百二十目
  - 一、二千二百石 一貫四百七十目
  - 一、二千三百石 一貫五百二十目
  - 一、二千四百石 一貫五百七十目
  - 一、二千五百石 一貫六百二十目
  - 一、二千六百石 一貫六百八十目
  - 一、二千七百石 一貫七百三十目
  - 一、二千八百石 一貫七百八十目
  - 一、二千九百石 一貫八百三十目
- 三千石より五萬石迄、はした知行有之時者、五百石迄上に付、四百九拾石迄下ね可付事。

- 一、三千石 一貫八百八十目
- 一、四千石 二貫二百十匁
- 一、五千石 二貫六百目
- 一、六千石 二貫七百三十目